

一般社団法人日本薬学生連盟 2021 年度執行部立候補申請書

立候補者氏名	岸 怜央
立候補する役職	2021 年度 副会長
大学/学部/学科	東京薬科大学/薬学部/薬学科
学年	3年
所属	学術委員長、会計部、財務部、外務部、国際渉外部、交換留学委員会
日本薬学生連盟での活動経歴	2018 年度 学術委員会、国際渉外部 所属 2018 年度 関東 FREEE 長 2018 年度 IPSF APRO Editorial and translation Subcommittee 所属 2019 年度 学術委員会、国際渉外部、PR 委員会、外務部、財務部、交換留学委員会 所属 2019 年度 IPSF APRO Editorial and translation Subcommittee 所属 2019 年度 APPS2019 in Bandung 参加 2019 年度 年会部会長 2020 年度 学術委員長、国際渉外部、外務部、財務部、交換留学委員会、会計部 所属 2020 年度 IPSF APRO LiT 参加 2020 年度 IPSF APPS2022 部会長
立候補動機	1年間本部として活動してきた、日本薬学生連盟自体の問題点が不明瞭であったため、本部はもちろん、スタッフ会員にも今の日本薬学生連盟の問題点を共有し、みんなで共に解決していきたくらいと思ったからです。 スタッフ会員への対応にもっと力を入れ、もっと薬連のメンバーとして活動している意識を高める。
問題点と改善案	①本部内でのやり取りで食い違いがある。 →しっかりと結論に達した経緯を説明し、本部全体の認識の一致を意識する。 ②レギュラー会員にアプローチが足りない。 →レギュラー会員に対して、広報策を考えより広く広報することや、レギュラー会員同士の交流が取れる環境の提供を考える。 ③協力団体との関わりを見直す必要がある。 →今現在は各支部に任せているが、実際に日本薬学生連盟の学生と協力団体との交流が弱いと思われるので、その場を支部長と共々考える。 ④スタッフの意見が本部に届いていない。 →不満や意見がある際は、まずは統括・委員長・支部長に報告できる環境を整備する。それをしっかりと本部 MTG もしくは臨時で取り上げ、解決に向けて話し合う。 ⑤本部のキャパシティにあった仕事の割り振りができていない。 →本部のキャパシティをしっかりと把握した上で仕事の割り振りを行う。 ⑥スタッフが多いにもかかわらず、後継者が見つからないという状況が多くの部署で起こっている。(薬連の引き継ぎ) →モチベーションのある子を伸ばす。また、モチベーションを引き出すための工夫を考える。 ⑦オンラインでの活動頻度。 →今年は急遽オンラインでの対応を求められたため感覚がわからなかったが、来年度は大学の対応を考慮しつつイベントの実施を考える。 ⑧物事を1つの視点で見がちである。 →全体を俯瞰して判断することを意識する。

<p>活動計画</p>	<p>当選後 新本部内で、方針を話し合う 引き継ぎ 問題点を新本部でプレストする</p> <p>通年 本部月例ミーティングのアジェンダ共有 各部署の問題点に向き合う システムトラブル時の対応 本部のメンバーのケア(サポート) 会長の相談役</p>
<p>所信</p>	<p>大学外での交流。そして全国を飛び越え、世界規模で薬学生と関わることができる。そんな事ができる薬学生団体は他には存在しません。</p> <p>僕が思い描く薬連の理想像は、薬学生が薬連を卒業したあとも交流できたり、困ったときに相談することができたり、20年や30年経ったあとも OBOG として関係を保つことができる団体だと思っています。</p> <p>僕が 3 年間日本薬学生連盟で活動してきて、出会った薬学生はほんとにモチベーションも高く、ポテンシャルも高い薬学生ばかりでした。しかし、例えば「自分の意見はあるけど発言できない」や「自分から行動するのが怖い」といった点で活動を抑制してしまう薬学生を多く見てきて、もったいないなあと思う場面が多くありました。そんな薬学生を少しでも応援したいし、大丈夫だよと背中を押してあげることができたらいいなと思っています！</p> <p>今この薬連に所属している本部、スタッフ会員、レギュラー会員が活動できるような環境にしたいし、この団体における問題点や不満点は少しでも多く解消し、本当の意味で薬学生に新しい価値を提供できるような団体にしていきたいです。</p>